



国分寺市議会議員
たかせ 高瀬かおる



国分寺市議会議員
こさか 小坂まさ代

◆6月議会一般質問◆

- 1.物価上昇による影響について(1)市民への影響について①生活困窮者への支援について(2)事業への影響について①学校給食について②委託事業について
- 2.働き方について(1)労働者協同組合の施行に伴う取組について
- 3.ケアラー支援について
- 4.自然を生かした潤いあるまちづくりを(1)国分寺市全体を植物園に見立てたまちづくりを(2)国分寺駅北口駅前広場の植栽に関するパンフレット作成を
- 5.国分寺駅南口の整備について
- 6.共生と平和を地域から(1)対話を大事にした国分寺市に

自然を生かした潤いあるまちづくりを

コロナや戦争など気が重くなることが多い昨今、少し目線を変えようとまち中の緑や色とりどりの花々に癒されます。そこで、まだまだ市内に残る貴重な緑を「植物園」のように見立て、もっと自然を感じられる工夫を求めました。それには、緑のネットワークを構成する公園や樹林地、街路樹などの緑を増やすだけでなく、育て、維持し、身近に触れられるいい状態にしていくことが大切です。現代的な生物学の知識を持って自然と向き合い、土地にあった樹木を、それぞれの特性にあった方法で管理するよう求めました。

答弁がありました。

国分寺駅南口駅前には、2018年の台風で倒れた木や被害がなかったのに伐採された木の切り株が、そのまま残されています。武蔵野の自然をイメージし、災害にも強く管理しやすい樹木を植樹してほしいとの市民要望があります。国分寺駅南口整備に向けて、今年度は団体ヒヤリング等により市民意向の把握を行っていくことです。

(高瀬かおる)

子どものマスク着用について

子どものマスク着用については、以前より顔色、呼吸の状態などが観察しにくい、体調異変の発見が遅れるなどの点が懸念されています。小中学校においては、声をかけても外さない子どもが多い現状もあり、長い間マスクをさせられてきた生活が子どもたちに与えた精神的な影響が心配です。東京・生活者ネットワークが実施した子どもアンケートの回答にも、「マスクが苦しい」

「頭や耳が痛くなる」「外して話していたらすぐに怒られ、学校に行きたくない」という声が寄せられました。「みんなが外さない」と外す勇気が出ないという回答もあり、マスクを外すことへの対応が必要です。

市としては、「保育園では、これまで2歳児未満についてはマスクの着用は推奨しておらず2歳児以上についても一律に求めている。学童保育所では推奨してきた。2メートル以上の間隔で保育をすることは困難なことから、屋外でもマスクを外せる場面は見いだせない

いが、熱中症対策として臨機応変に対応する」とのことです。熱中症だけではなく、感情や発達に及ぼす深刻な影響が明らかになりつつあり、着用を強制することのないよう求めました。

教育長からは「子どもたちが自ら主体的に判断して、時と場に応じてマスクを着用したり外したりできるように周知したい」との答弁でしたが、まず周囲の大人がマスクをしない時間を増やしていくことが大切だと考えます。

(小坂まさ代)

また、樹木や草花に名札をつけるなど、自然に親しめる環境づくりを求めました。「内藤さつき公園」では、公園にないがweb上の植物図鑑にアクセスできる二次元コード付きの表示板を設置しています。今後、市で整備する公園緑地においても同様の表示板を設置していくよう考えられるとの



みんなの想いを現庁舎用地に活用基本計画に!



新庁舎(泉町)建設が本年12月から始まる予定で

新庁舎が完成し移転する2025年度以降、現庁舎用地に新たに複合公共施設(恋ヶ窪公民館・図書館・福祉センター、市民本多武道館などを集約)を建設し、都市計画道路3・2・8号線寄りには民間事業者による活用も想定しています。公共複合施設と民間施設が賑わいの相乗効果をもたらすような人の動線や緑の配置も重要です。また、複合公共施設は、多機能化を進め、使いやすく多様な人の交流の場となる必要です。2027年度中の開設をめざし、今年度中に「現庁舎用地利活用基本計画」を策定することになっています。

案)の説明会が開かれました。市は、複合公共施設整備事業について「従来方式」(官民連携で建築し運営する方式)を比較検討するとしています。公民館・図書館を含む施設の運営を民間に委託することの是非は、市民参加で十分に検討しなければなりません。また、現庁舎用地だけでなく、恋ヶ窪駅周辺のまちづくりをトータルに進める必要があります。現在、恋ヶ窪駅周辺の商店会・事業者へのヒヤリングも行われています。説明会では、複合公共施設の運営方法や予約システムの一本化など、さまざまなご意見要望が出されています。計画や設計のあらゆる段階において、市民参加が必須です。

(高瀬かおる)

「少人数学級を求める意見書の送付を求める」陳情が本会議で不採択に

国分寺市議会に2021年3月に出された、陳情第3-2号「一人一人の子どもを大切に、感染症からも守るために、国分寺市議会が、国・東京都に対して『小・中学校全学年に30人以下の少人数学級の実現を求める意見書を送付すること』を求める陳情」について、厚生文教委員会では1年以上審査してきました。

コロナによる分散登校中には、子どもたちや保護者から「先生に質問がしやすかった」「ひとりひとりをしっかりみてもらえた」という声が多数聞かれました。

生活者ネットワークでは、少人数学級を導入している秋田県などの事例から「学力は向上し、いじめ・不登校、欠席率が減少している」とことや、教員の働き方改革としても、担当する児童生徒数の軽減が必要のため、委員会で賛成討論をしました。

少人数学級は、教職員の増員や教室の確保など、国や都の取り組みや予算措置が不可欠です。現在、国分寺市では小学校での35人学級の実現に向け、各小学校の増改築が計画されていますが、中学校は40人学級のままで。子どもたちにとって学びやすい環境を整えていくために、小中学校で30人以下の少人数学級を目指すべく、国や東京都にその必要性を訴えていくことが重要だと主張し、委員会では賛成多数で採択されました。

しかし、最終本会議では「現状では教室の増設は難しい」「教員の人材育成が優先」といった反対討論があり、反対11、賛成10で不採択となりました。残念でなりません。日々成長していく子どもの現場に寄り添い、声を伝えていく役割をこれからも担っていきたく強く思いました。

(小坂まさ代)

陳情内容の詳細についてはこちらをご覧ください。
<https://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shigikai/chinjousho/1025477.html>

認知症の理解を深める認知症SOS対応模擬訓練!



認知症は誰でもなり得る病気です。わかっている、いざ、自分や家族がそうとなると動揺したり、戸惑ったりします。6月28日に、「認知症の方への声かけ模擬訓練」に参加し、認知症本人役と対応者(支援者)役になって会話してみるというロールプレイを体験しました。

さて、もし駅の切符売り場で切符を買うことを何回も繰り返している方がいたら、どのように声をかけますか?出かけようとしたときに「あなた、私のお財布を盗ったでしょ」と高齢の家族に言われたら...?それぞれの役になって話してみると認知症の人の気持ちや対応する側の戸惑いなどを感じることができ、対応者の気持ちは認知症の人にも伝わるのだと分かりました。

認知症の症状は人それぞれです。緩やかな進行のまま、今までの生活を続けられる人も増えています。このような模擬訓練を重ねることで、認知症を知り理解して、優しく接する人を増やしていくことが重要です。地域に広げていきたいと思います。

(高瀬かおる)

